

第2回 新しいまちづくりのランドデザイン推進本部会議  
《議事概要》

- 日 時：令和4年7月14日（木） 午後3時から午後3時45分
- 場 所：大阪市役所 屋上階 P1 共通会議室
- 出席者：会議資料「出席者名簿」のとおり

○ 開会

（司会）

定刻となりましたので、ただいまより第2回新しいまちづくりのランドデザイン推進本部会議を開催いたします。本日は、ご多忙の中、ご出席を賜りまして誠にありがとうございます。私は、本日の司会を務めさせていただきます、事務局の大阪都市計画局技監の尾花でございます。宜しく願いいたします。

それでは、開会にあたりまして推進本部本部長の吉村知事よりご挨拶申し上げます。よろしく願いいたします。

本部長（吉村知事）

みなさま、お疲れ様です。

本日は、第2回大阪の新しいまちづくりのランドデザイン推進本部会議に参加いただきまして、ありがとうございます。感謝申し上げます。着席して失礼いたします。

今年度に入って、スーパーシティの特区の区域に大阪市域が指定をされました。今後は、夢洲やうめきた2期の、この地区をメインターゲットとして着実に取り組みを進めていきたいと思っております。

また、新大阪駅周辺地域ですけれども、ここもまちづくりの方針が策定をされました。先日、国に都市再生緊急整備地域の指定の申し出も行いました。今後、新たなまちづくりが動き出すという状況になります。

大阪が発展・成長していくためには、やはり大阪の都心部での取り組み、これは非常に重要です。これに加えて、郊外に至る大阪全域を見据えたまちづくりのランドデザイン、これを示していく必要があると思っています。本日は、現時点で検討しているランドデザインの間とりまとめ案につきまして、活発な議論をお願いしたいと思います。挨拶をもって代えさせていただきます。よろしく申し上げます。

（司会）

ありがとうございました。

出席者の紹介につきましては、お手元に配付の出席者名簿及び配席図をもって代えさせていただきます。

なお、大阪府市長会の野田会長におかれましてはウェブでのご参加となっております。  
また、大阪府府民文化部長につきましては、本日急遽、ご欠席と聞いております。

また、資料につきましては、次第に掲載しているものをお手元にお配りしておりますので  
ご確認ください。

それでは、議事次第に基づきまして、議事を進めさせていただきます。

新しいまちづくりのグランドデザイン、中間とりまとめ案につきましては、事務局より資料  
の説明を申し上げます。

### (事務局)

まず、A3の資料1をご覧ください。前回、12月の推進本部会議では、大きな方向性といた  
しまして、めざすべき府域の都市構造とともに、大阪都心等での国際競争力を有する拠点、  
府下の中核を担う拠点、さらには、大阪ならではの新しい郊外の姿をはじめ、地域の特色を  
活かしたまちづくりの必要性等について、議論をいただき、その後、有識者や関係者等と意  
見交換しながら、今回、中間とりまとめ(案)として、新しいまちづくりのグランドデザイ  
ンの全体骨子を作成したところでございます。

まず、資料1に沿って、全体骨子の構成について説明させていただきます。まず、資料左  
側では、大阪都市圏から見た特徴・役割を示しております。次に、それを踏まえためざす  
べき都市構造として、(1)まちづくりの基本目標、(2)めざすべき都市構造を示してござ  
います。

次に、資料右側では、こうしたまちづくりの実現に向けたまちづくりの戦略と取組の方向  
性として、戦略1から戦略3を、また、これらの戦略を支えるものとして、4と5  
をお示ししているところでございます。

また、右下の方には、今後ブラッシュアップを図って、検討していく項目を示している  
ところでございます。具体的な内容につきましては、A4の資料の方で説明させていただき  
たいと思いますので、資料2の方をご覧ください。ご説明させていただきます。

まず、表紙の方に、今回のグランドデザインの位置づけ及び狙いとして、万博開催やスー  
パー・メガリージョン形成のインパクトを活かして、東西二極の一極を担う副首都として、  
大阪が更に成長・発展していくため、2050年を目標として、大阪のめざす都市像やまち  
づくりの方向性、その推進策を示すものであって、多様な主体がグランドデザインを共有し、  
民間活力を最大限活かしながら、まちづくりを推進することとしてございます。

ページをおめくりください。

1ページ目でございます。「1. 大阪都市圏からみた特徴・役割」といたしましては、ま  
ず、主な特徴といたしまして、放射・環状方向に発達した交通ネットワークを中心に市街地  
が連坦し、コンパクトな府域を形成していること。それから、近隣の主要な都市と一体とな  
った広域的な経済交流圏を形成していること。さらには大都市でありながら、都市に近接し  
た自然や多様な地域資源が集積していることなどを記載しております。

また、求められる役割といたしましては、国土軸上に位置し、世界のゲートウェイや、スーパー・メガリージョンを構成する西の核としての機能、それから都市ストックの更新を通じた大都市のリノベーションを進めること、さらには、そこに書いておりますような社会状況はじめ、2050年に向けた変化に的確に対応したまちづくりなどが求められていることを記載してございます。

下の図は、これから大阪の成長に向けた長期的な方向性のイメージとしていろいろな施策等を記載させていただきます。

2ページ目をご覧ください。

2ぽつ、めざすべき都市像についてですけれども、先ほどの求められる役割などを踏まえまして、(1)といたしまして、まちづくりの基本目標として、『未来社会を支え、新たな価値を創造し続ける、人中心のまちづくり』を掲げまして、①魅力的な国際都市として成長する大阪、②健康長寿で誰もが幸せを実感しながら暮らせる大阪、それから③といたしまして未来へつながる安全・安心な大阪、の実現に取り組むこととしてございます。

次に、3ページ目をご覧ください。ここでは「(2)まちづくりの基本目標を実現するための都市構造」といたしまして、はじめに「1)大阪を取り巻く都市構造」を①から③のとおり整理してございます。

まず、①といたしまして、広域的な都市構造では、大阪都心部を中心に、国土軸や環状軸、それから広域交通インフラ等で構成される広域的な都市構造を有してございます。

また、②といたしまして、府域を構成する都市軸といたしまして、都心部から放射・環状方向に発達した鉄道、それから幹線道路等の交通ネットワークを中心に、多様な都市機能が集積し、都市軸を形成してございます。

主な都市軸といたしましては、都心部を貫きます東西・南北軸、それから放射状に広がる軸、さらには大阪中央環状線沿道の中央環状軸を位置づけてございます。

それから右側、4ページをご覧ください。③といたしまして、土地利用や人口、それから都市機能の集積状況等を踏まえまして、府域のゾーニングを設定してございます。

大阪都心部といたしましては、概ねJR大阪環状線に囲まれたエリア、それから新大阪駅周辺地域でございます。また、都心部周辺といたしましては、概ね大阪都心部の境界から大阪中央環状線沿道に至るエリアで、大阪市中心部から概ね15km圏、といたしております。

また、郊外部といたしましては、概ね大阪中央環状線から周辺山系に至るまでの市街地を設定してございます。

また、地形に着目したゾーニングといたしまして、ベイエリア、河川空間、周辺山系、この3つのゾーンを設定してございます。

また、それぞれ、ゾーニングに応じまして、今後どのようなまちづくりが求められるかについても併せて記載しております。

ページをおめくりください。5ページ目になります。ここでは、「2)めざすべき都市構造」を示してございます。

まず、広域レベルでは、「広域的な都市構造を活かした都市圏の形成」をめざすことといたしまして、世界・アジアや全国・都市圏内外での人・モノ・情報の交流・連携を強化し、スーパー・メガリージョンの西の核、世界のゲートウェイに相応しい都市圏の形成を図ることとしてございます。

そのためには、都心部やベイエリアにおきまして、国際競争力を備えたエリアの形成とともに、大阪の経済成長を促す産業拠点、集積エリアの形成を図ることとしております。

次に府域レベルでは、「マルチハブ&ネットワーク型都市構造の形成」という形で、都心部の拠点開発効果の府域への波及や、今回のコロナを契機として多様な働き方、それから暮らし方を選択できるまちづくりが求められていることを踏まえまして、放射・環状の交通ネットワークを中心に、多様な都市機能を備えた特色ある拠点エリアや魅力ある生活圏を形成し、相互に連携する都市構造をめざすこととしてございます。

そのために、交通ネットワークの強化やこれを活かしたまちづくりによって、都市軸の強化を図ることとし、特に国土軸と南北軸の交点となります新大阪を中心に南北・東西都市軸の強化を図るという形で記載させていただいております。

また、交通ネットワークの高い結節性を有し、大阪の成長・発展をけん引、それから支えることが期待される地域等を中心として、多様な都市機能を備えた大阪の中核を担う拠点エリアの形成ということを2つ目で書いてございます。

また、主要な駅周辺や生活の中心となる場所における都市機能の集積、それらの徒歩圏を中心に居住機能等の誘導によりまして、集約型の歩いて暮らせるまちの実現、さらには、駅周辺等から離れた地域におきましても、自然との近接性と都心部等へのアクセス性を活かした魅力あるまちづくりの推進を図ることとしてございます。

次に右側の6ページをご覧ください。ここでは「3. まちづくりの戦略と取組の方向性」です。先ほどのめざすべき都市像の実現に向けまして、広域的な視点から取り組むべき5つのまちづくりの戦略を示してございます。それぞれの戦略につきましては、次ページ以降でご説明させていただきます。

ページをおめくりください。7ページになります。まず戦略1といたしまして、「成長・発展をけん引する拠点エリアを形成」を掲げてございます。

広域的な都市構造や府域を構成する都市軸、それからゾーニングや、今後のまちづくりの動向等を踏まえまして、拠点性を発揮すべきエリアを示し、公民連携のもと、新たな民間投資を誘発するとともに、多様な主体の参画によりまして、エリア価値を高め、大阪・関西の発展につなげたいというふうに考えています。

なお、7ページの上の方に書いているのですが、括弧書きの記載のとおり、今回の中間とりまとめ（案）では、あくまで拠点エリアの設定の基本的な考え方を示すこととしておりまして、今回示す考え方に基づいて、今後拠点エリアを明らかにしていきたいと考えております。それから、具体的な拠点エリアの設定の考え方ですが、まず、「1) 世界で存在感を発揮する拠点エリア」につきましては、高次都市機能・都市基盤が充実した都心部及び、世界・

アジアとつながるベイエリアにおきまして、国際競争力のあるエリア形成を図ることとし、「都心部」又は「ベイエリア」の核となるエリアで、国際競争力を高めるまちづくりが進行中あるいは今後期待されるエリアを設定したいというふうに考えてございます。

なお、現時点での候補といたしましては、右側の図の赤いところで示しておりますが、これまでのグランドデザイン大阪において、象徴的なエリアとして位置づけられていた都心の5エリア、それからベイエリアの夢洲・咲州とともに、今回、新たに堺都心、それから関空・りんくう周辺を候補として考えているところでございます。

次に「2）大阪の中核を担う拠点エリア」についてですけれども、ここでは都心部の拠点開発効果の府域への波及とか、コロナを契機としたいいろんな選択できるまちの実現に向けまして、「都心部周辺」や「郊外部」において多様な都市機能を備えたエリアを形成することとしております。

拠点エリアの設定の考え方としては、①から③で示してございまして、府域を構成します都市軸の結節性等を考慮しまして、まず①では、左下の図になるんですけども、中央環状軸と東西・南北軸の交点に位置し、大阪の成長・発展をけん引するまちづくりが進行中又は今後期待されるエリアを設定してございます。

次に、②、真ん中の方ですけれども、ここでは中央環状軸と放射軸の交点に位置し、大阪の成長・発展を支えるまちづくりが進行中あるいは今後期待されるエリアを設定しております。

次に③、これ右側になりますけれども、ここでは放射軸のうち郊外部において市街地が連坦している3つの軸上、そこに3つ軸を挙げているんですけども、その軸上からその中心を担うにふさわしいまちづくりが進行中、もしくは今後期待されるエリアを設定することとしています。

以上が、各拠点エリアの考え方とか、あるいは世界で存在感を発揮する拠点エリアの現時点での候補となりますけれども、右側8ページ、囲みで書いてございますように、今後これらの考え方等を踏まえまして、エリアの位置とか範囲、それからエリア価値を高める取り組みについて、お示ししたいと考えてございます。

次に、8ページの右下をご覧ください。

ここで、「3）経済成長を促す産業拠点・集積エリア」といたしまして、産業政策なども踏まえつつ、ものづくり産業や健康・医療関連産業、環境・新エネルギー産業など、大阪の成長・発展をけん引する産業創造・集積を図る拠点エリアの形成を推進することとしてございます。

次にページをめくっていただきまして、9ページになります。ここでは戦略2といたしまして「大阪ならではの魅力を活かし、暮らしやすさ No.1 都市を実現」を掲げてございます。

大阪の「都心部周辺」や「郊外部」は、豊かな自然環境、それから歴史・文化・景観資源などを身近に感じることができることに加えまして、大阪の都心部や、周辺都市へのアクセス利便性も非常に高いという特徴がございます。

今後、テクノロジーの進展などによりまして、生活スタイルが更に多様化していく中では、大阪が持ちます地域資源と、大阪都心部などへのアクセス性の良さという特徴を活かしたまちづくりを、地域が連携し主体となって進めることで、新たな職住遊の生活スタイルを先導する都市をめざすこととしてございます。

また、具体的なまちのイメージと取組みの方向性を、3つに分けて示しております。まず、1)、9ページ目ですけれども、駅周辺を中心に一定の生活圏が形成されておりますエリアにおいて「駅周辺での拠点形成と魅力ある生活圏の創造」を、それから10ページ目になりますけれども、2)では、ニュータウンなどの同時期に一齐に開発された郊外住宅地におきまして「多様な世代が住み、働き、交流するまちへの再編」、それから10ページの下になりますけれども、3)では、山や海などの自然に近いエリアでの「豊かな自然を活かしたまちづくり」に取り組むこととしております。

それぞれ3つの分野ごとに、今考えられる考え方とか、取組の事例等、あるいはイメージ図なんかをそれぞれについて今回記載させていただいているところでございます。

次ページめくっていただきまして、11ページをご覧ください。ここでは、戦略3といたしまして「海・川・山や多様な地域資源を活かした、地域を活性化」を掲げてございます。豊かな自然環境や歴史・文化・景観資源をはじめとしました多様な地域資源が集積するという大阪の強みを活かしまして、府県域にとらわれず、広域的に連携することで、各地域、ひいては大阪・関西全体の活性化を図ることをめざすこととしてございます。

海・川・山が都市部に近接するという大阪ならではの地形的要素に着目しまして、その取組みの方向性といたしまして、まず、11ページの1)では、夢洲におきます大阪・関西万博のインパクトや様々な地域資源を最大限に活用しながら「ベイエリアのまちづくりを推進する」ことを、また、2)では、沿川市町村が有します個性豊かなストックやポテンシャルを活かして「河川空間を活かした魅力あるまちづくり」を推進すること、それから12ページの3)ですけれども、ここでは自然資源等を最大限に活用しながら、「周辺山系の自然資源等を活用したまちづくり」を推進すること、さらに、4)では、大阪府全域を対象に、歴史的なまちなみや豊かなみどり、歴史・文化・景観、それからアートなどの「多様な地域資源を活かした魅力あふれる都市空間の形成」に取り組むこととしてございます。

それぞれ大きな表題ごとに、現時点で考えている取組等を少し紹介させていただいております。このあたりも今後、少し深掘りしていきたいというふうに考えているところでございます。

次、ページめくっていただきまして、13ページになります。戦略4では、「人・モノ・情報の交流を促進」を掲げてございます。まず、「1) 交通インフラと連携したまちづくり」では、国際競争力の強化や持続的な経済成長を促進するため、都市の骨格となります道路・鉄道等のネットワーク整備や、円滑な交通を図るための既存ストックの改良等の対策、さらには新たなテクノロジー等によりまして交通手段の活用、これら交通インフラと連携したまちづくりの推進に加えまして、国際競争力の更なる強化を図るための空港・港湾の機能強化

等に取り組むこととしてございます。

また、右側 14 ページ、「2) 豊かな都市空間を創造するまちづくり」では、多様な暮らし方・働き方を支えます「人中心のまちづくり」を実現するため、「人中心の快適で魅力ある空間の創出」に向けた取組や、移動の快適性・回遊性などを高めるため、近年注目されております「自転車、水上交通、パーソナルモビリティなどの新たなモビリティ、それから空飛ぶクルマなどのエアモビリティを活用したまちづくり」に取り組むこととしてございます。

次、ページをめくっていただきます。15 ページになります。戦略 5 といたしましては、「安全・安心でグリーンな社会を実現」を掲げてございます。

まず 15 ページ、「1) 安全・安心なまちづくり」では、「人命を守る都市機能の強化」といたしまして、南海トラフをはじめとする巨大地震や台風時の高潮に対し被害を最小化するなどの取組や、気候変動の影響によります今後の水災害リスクの増大に備え、リスクの低減を図る取組など、ハード・ソフト両面でまちづくりを推進するとともに、16 ページの右側、上になりますけれども、「供給処理施設の安定的な機能維持と、施設の再構築とまちづくりへの利活用」についても取り組むこととしてございます。

続いて 16 ページの右側のところでは、「2) グリーン社会の実現に向けたまちづくり」といたしまして「みどりを活かした魅力あふれるまちづくり」として、みどりが有します多様な機能をインフラ整備やまちづくりに活用することによりまして、魅力ある都市空間を創出することや「脱炭素・省エネルギー社会の実現に向けたまちづくり」といたしまして、デジタル技術の活用等を通じて、スマートシティの社会実装や、エネルギーの地産地消、それから再生可能エネルギー等を活用した取組を進めること、さらには「循環型社会の実現に向けたまちづくり」といたしまして、プラスチックごみ対策に重点的に取り組むこと等、各種取組を進めることとしてございます。

最後、17 ページになります。今後ですね、これまでに説明させていただきました各項目についてブラッシュアップを図るとともに、検討を行う項目といたしまして、「まちづくりプロジェクト図」「将来イメージ」さらには「グランドデザインの推進に向けて」それと「取組ロードマップ」、こういったものについても検討を進めてお示しさせていただきたいというふうに考えているところでございます。

最後に資料 3、A4 横の資料を少しご覧ください。これは、今後の策定スケジュールになります。真ん中の方、少し黒く塗っているところで、本日「第 2 回推進本部会議」での議論を踏まえまして、中間とりまとめ（案）をとりまとめる予定としてございます。

その後、有識者懇話会や経済団体との意見交換会、市町村との個別ヒアリング等によりまして、引き続き議論を深めるとともに、議会での議論も踏まえ、秋頃を予定してございますけれども、「第 3 回推進本部会議」を開催し、新しいまちづくりのグランドデザイン（案）についてご議論いただいた後、パブリックコメント等の手続きを経まして、この年内を目途に策定する予定でございます。

以上、事務局の説明はこれで終わらせていただきます。

**(司会)**

資料の説明は以上でございます。それでは、ご意見やご提案などを賜ってまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。挙手を宜しくよろしくお願いいたします。

**大阪府町村長会会長（田代町長）**

今、説明いただきました、第1回目と違って第2回目は広げた内容になっているというふうに感じました。大阪はコンパクトな府域にあってですね、豊かな自然環境や歴史・文化、資源などが集積しております。町村ではこれらを活かした、地域の特性を活かした特色あるまちづくりを進めるといのが重要な課題であるのかなと思っております。そういった観点から申し上げますと、ただいま説明があった戦略2の3)豊かな自然を活かしたまちづくりや、また、戦略3の周辺山系を活かした広域的な連携による取組は町村に焦点を当てた取組として大変効果的、このように思います。素案のとりまとめに向けて引き続き次の最終の段階までですね、市町村と丁寧意見交換しながら検討を進めていただきたいということをお願い申し上げます。以上です。

**(司会)**

ありがとうございます。特色のあるまちづくりを中心に、ご意見を踏まえまして、今後市町村はじめ、関係部局とともに検討を進めて参りたいと思います。

**副本部長（永藤市長）**

まず、全体についてですが、今回のランドデザインを作っている背景として、大きな社会環境の変化というのがDXとカーボンニュートラルという世界的な流れだと思っています。これらの言葉につきましては、2016年に策定をされましたランドデザイン・大阪都市圏の中では見られませんが、少なくとも今後数十年は世界的な関心事項であり続けると思っています。1ページ目に2050年までに想定される出来事を見ていただいておりますが、大阪全体として長期的な視点に立って、その方向性を大阪府と府内の自治体が共有することでランドデザインを実効性を持って進めていくことができるのではないのかと思います。

そして、具体的な戦略のところですが戦略1と記載されているところで、「成長・発展をけん引する拠点エリア」の候補に堺都心周辺エリアを挙げていただいていることにつきましては、堺の成長の中心にあるこのエリアの活性化に力を入れておりますので特に嬉しく思っております。

堺市は大和川を挟んで南大阪の玄関口に位置しておりまして、都市機能が集積した大阪市と、歴史・文化・自然、大阪市とは異なる魅力を持った地域との連携という面でも、特に大阪の南北の交流の起点にもなると考えております。戦略1の2)と3)につきましては、これから具体的な例が示されると思っておりますが、各市町村が注力している取組を情報



共有していただいて、それとともにリンクができるとより信用性が高いものになると思っております。堺市で言いますと、2つ例を言いますと、大阪メトロ御堂筋の終点であります中百舌鳥エリアには、中百舌鳥をイノベーション創出拠点とする取組を進めております。大阪スマートシティ戦略の展開エリアの1つであります、泉北ニュータウン地域は、先月、泉北スマートシティコンソーシアムを立ち上げまして、本格的に動き出しております。それらの地域の動きも、ランドデザインに貢献できると考えておりますので、方向性を共有しながら進めたいと思っております。以上です。

#### (司会)

ありがとうございます。ご指摘の新たな潮流である社会情勢変化、カーボンニュートラル、それからデジタルトランスフォーメーション、こういった点について堺市さんの例とともにですね、事務局としても検討を進めて参りたいと思います。

#### 本部長（吉村知事）

大阪全体のまちづくりを考えていくときに、大阪都心部の効果を、大阪全体に広げていくということが非常に重要だと思います。これまでの大阪の都心部の成長、これはしっかりと引き続きやっていくと。そして今度は新たにベイエリアですね、夢洲、舞洲のベイエリア、それと先ほどお話にあった堺の新都心のエリア、そして関空のエリアも非常に可能性は高いと思っています。こういった存在感を発揮する拠点エリアのまちづくりをしっかりと進めていくとともに、やはり全体に効果を広めていくということが重要、というのも大阪はそれをやりやすいエリアだと思っています。全国で2番目に小さい都道府県で、非常にコンパクトな都道府県が大阪府であります。一方で経済規模は日本で2番目の経済圏域を持っている中心地でもありますので、その大阪の特性を活かして、この中心的な経済の発展成長の土台となるまちづくりをして、そしてそれを大阪府域全域に広げていく、これが重要だと思います。なので、都心部とともに、府内の各エリア、各地域における拠点エリアを具体的に示していくというようなことも、これから今後の成案のとりまとめにおいてはやっていってほしいと思います。

また、まちづくりにおいては、大阪都市計画局、非常に重要な役割を果たすと思っています。大阪都市計画局は大阪府と大阪市の、これまでバラバラだったところをですね、大阪都市計画局というのを組織として作りましたので。非常に高い技術が大阪市にあるわけですが、今、合同の局になっていますから、大阪都市計画局を中心にやってほしいのは、市町村のまちづくり、府域全体の市町村のまちづくりにも積極的に関与して、その取組をですね、大阪府域全域の視点でまちづくりを進めて、大阪全体の成長を図っていくということをしっかり進めていってほしい。また、そういったことをランドデザインに落とし込んでいってほしいと思います。

民間との協力でいうと、やっぱり MaaS とか AI のオンデマンドバスとか、非常に、新たな

技術もたくさん出ていますので、そういったソフトの部分については上手く取り込んでいってですね、空飛ぶクルマなんかも 2025 年にやろうとしてますし、ソフトの部分をうまく取り込んでいながら、狭いエリアの大阪でいかに住みやすいまちづくりをするのか。町長からもありましたけども、やはり海とか川とか山とか、非常に豊富な自然の資源もありますし、歴史的な資源もありますから、住みやすいまちであり、そして成長する都市であるということ両立できるのが大阪だと思ってますので、そういった観点からも長期ビジョンのまちづくりをしっかりと進めてもらいたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

#### (司会)

ありがとうございます。都心の効果を府全域に広めていくということで、お示ししました都市軸、交通軸等のこういった効果も含めまして、取組を進めたいと思います。

また、当局、大阪都市計画局といたしましても、広域の視点で市町村の方々とともにまちづくりを進めていくと、その意味でソフトの活用、また、お示しいただきました大阪府域のコンパクトな条件や地整、こういったところも引き続き着目して協議、調整を続けていきたいと思いますので、ありがとうございます。

#### 副本部長（松井市長）

都心部のまちづくりについては、新大阪周辺では国土軸、それから南北軸の交差である立地を活かしたスーパー・メガリージョンという西の核の形成を今進めております。

夢洲では国際観光拠点の形成など、世界の中での存在感を発揮する拠点エリアとなるように、着実に進めて参ります。

大阪がさらに成長・発展していくためには、都心部の拠点開発の波及効果を、今知事も言っていましたけど、府域全体に、全域に広げていくことが重要であります。

都心周辺部は都心と一体となって大阪の成長・発展をけん引するゾーンとなることが期待されており、隣接する市とも連携してまちづくりに取り組んでいってもらえるようよろしくお願いいたします。

それから、やはり住みやすいということでは、にぎわいの拠点を作ると同時に行政サービスをどう強化していくかということも非常に必要なポイントになりますので、これはやはり各行政を預かれる市長会、町村長会の市長の、町長の努力ということも重要な。はっきり申し上げて、大阪市ばかり一極で人集まっても、僕はあまりよろしくないと思っています。魅力ある都市を作ることで、日本は人口減っていきますから東京と大阪二極のところにぎわいとプラス住み心地が良いというのを全域で担っていくというのが、これからの人口減少社会において大阪で次の世代が、大阪でやはり豊かになっていけるような、それが広がっていくというのがこれから 2050 年に向けての理想だと思っていますので、そういうソフト面もしっかりと連携できるようにお願いします。

**(司会)**

ありがとうございます。国際的、世界水準の都心をはじめとするような拠点・エリア、また、ご指摘もございました大阪市の近接するエリア、資料の中ではゾーニングとして都心部周辺エリア等で描いてございますけれども、そういったところの人口減少社会におけるにぎわい、プラス住みやすさというご指摘がございました。こちらのご意見を踏まえて検討を深めてまいりたいと思います。ありがとうございます。

**大阪府市長会会長（野田市長）**

今回、府域を構成する都市軸、これを明確にされたということで、大阪だけでなく関西、西日本につながる、ある意味では日本における二段軸構想というんでしょうか、大阪と東京、この存在を明確にできる大きな柱であると考えます。そういった意味で、明確にされたことについては大変良い形になっていくのではないかと思います。

2点目は、細かい内容になるかもわかりませんが、15ページの安全・安心でグリーンな社会の実現というところであります。この後段部、後半のところですね、下水施設をはじめとしたという記載がありますが、当然安全・安心な社会ということになってくると、上水もこれは一体のものでありますので、もし可能であれば、上下水という記載の方が府民には理解できるものになるのではないかと考えております。

3点目は、先ほど知事もご発言されましたが、年内に策定をされるということでありますので、成案が確定されましたら当然我々、各市もちろん町村もそうでありますけれども、前回も申し上げたかと思いますが、それぞれ自治体が計画をした総合計画、また、基本構想、名称は色々あるかと思いますが、ここにしっかりとですね、落とし込んでいく、あるいは計画、各自治体の計画をバージョンアップさせていくということ、これが大事かと思いません。結果としてそのことがこのランドデザインのいわば実績につながり、まさに新しいかたちを創造し続ける大阪の成長戦略の大きな、いわば柱になると考えておりますので、ここはしっかりと成案ができましたら、市長会としてもその認識は持っている、ここはワンチームで頑張っていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。以上でございます。

**(司会)**

ありがとうございました。都市軸について、評価を賜りました。また、安心・安全・グリーン社会の項目の中で、ご指摘の下水道施設を代表とさせていただきますけれども、ご指摘のとおり上水道含めました生活インフラにつきましては、この供給処理施設の方で今後の検討を深めてまいります。

最後に、市長会としてのお話がありました。我々としても、各市町村の総合計画等にこのランドデザインをどう関連させていくかというところ、今後、推進方策の中で市町村の皆様とも議論を深めてまいりたいと思います。よろしくお願いいたします。ありがとうございました。

**(大阪都市計画局 角田局長)**

本日は、色々なご意見賜りましてありがとうございます。担当事務局の立場で話しますが、今日いただいた意見踏まえまして、これから事務局としてしっかり検討して、次回成案に結びつけたいと思います。特に今日ご説明しました8ページのあたり、拠点の表し方、まだまだ精度深めまして、点線で空白になっているところをどう埋めていくかというところ非常に重要なポイントというふうに認識しておりますので、また市町村のご意見も賜りつつ、専門家の意見も少し伺いながら、このところしっかりと埋めていきたいと思います。またよろしく願いいたします。

**(司会)**

ありがとうございます。お話にありましたとおり、今後引き続き、ランドデザインの案の策定に向けまして、協議・調整を進めてまいりたいと思います。

そうしましたら、貴重なご意見を賜りまして、誠にありがとうございました。申し上げましたとおり、第3回の開催に向けまして、様々な協議・調整を進めてまいりたいと思いますので、引き続き、よろしく願いを申し上げます。以上で、本日の議事は全て終了いたしました。これもちまして、第2回新しいまちづくりのランドデザイン推進本部会議を閉会いたします。皆様、ありがとうございました。

— 以上 —